
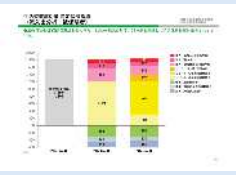


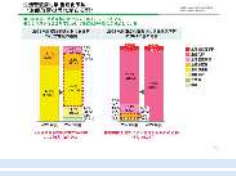



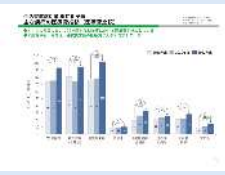

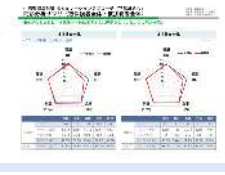



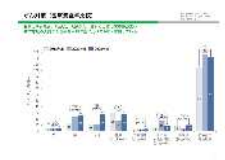

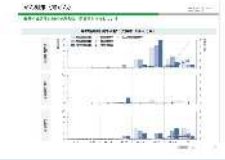
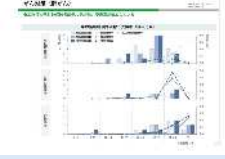
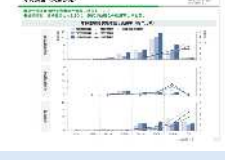
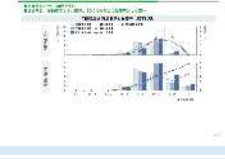
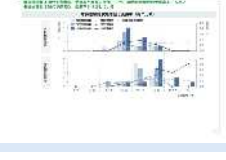
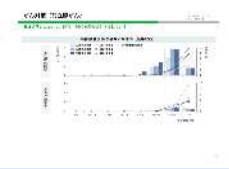
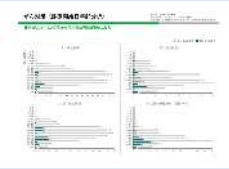
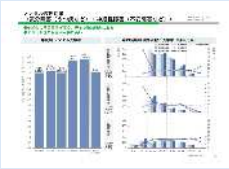
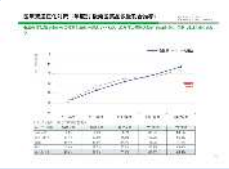





キ		生活習慣病対策 特定保健指導〈年齢階層別 特定保健指導割合〉	特定保健指導分析	●被保険者においては、どの世代においても積極的支援の該当者割合が他組合より高い
ク		生活習慣病対策 特定保健指導〈流入出分析 被保険者〉	特定保健指導分析	●20年度の特定保健指導対象者のうち、51%の者が21年度、22年度も連続して特定保健指導対象者となっている
ケ		生活習慣病対策 特定保健指導〈若年層の保健指導域該当者（若年層全体）〉	特定保健指導分析	●若年層の保健指導域該当者割合が18年度から22年度にかけて増加している
コ		生活習慣病対策 重症化予防生活習慣病 リスク分布〈被保険者〉	健康リスク分析	●リスク者である治療放置群の割合が他組合よりも高く、また、重症化群の割合が年々増加および他組合平均を上回っている
サ		生活習慣病対策 重症化予防〈治療放置の恐れがある群〉	健康リスク分析	●2年連続で受診勧奨対象である方は1,726名いる ●21年度から22年度にかけて重症化群の割合が増加している
シ		生活習慣病対策 重症化予防〈階層別の肥満・非肥満状況〉	健康リスク分析	●「患者予備群」「治療放置群」は、「正常群」「不健康群」と比較し、肥満者の割合が高い
ス		生活習慣病対策 重症化予防 医療費に占める代表的な疾患の割合	医療費・患者数分析	●全体の内、生活習慣病の割合が年々増加しており、22年度では全体の8.2%を占めている

セ		生活習慣病対策 重症化予防 生活習慣病医療費分析	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●加入者あたり医療費が18年度から22年度にかけて48.9%増加している ●生活習慣病受療率が18年度から22年度にかけて3.6pt増加している
ソ		生活習慣病対策 重症化予防主な疾病の医療費推移〈医療費比較〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての疾患において20年度から22年度にかけて医療費が増加している ●2型糖尿病・高血圧・脂質異常症の医療費が大きく増加している
タ		生活習慣病対策 重症化予防CKD（慢性腎臓病）重症度別受診状況	健康リスク分析	●高いリスク（G3aかつA3,G3bかつA2またはA3、G4、G5）を有しているにもかかわらず、医療機関を受診していない方が、35名存在する
チ		生活習慣病対策 ポピュレーションアプローチ（正常域含む）問診分析サマリ〈被保険者全体・被扶養者全体〉	その他	●他組合と比較し、被保険者・被扶養者ともに運動をしていない者の割合が高い
ツ		生活習慣病対策 問診分析〈生活習慣改善意欲〉運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いませんか	その他	●2022年度の回答で「意思なし」と答えた方の割合が男性被保険者28.1%、女性被保険者21.6%であった
テ		歯科対策 重症化予防〈歯科受診割合〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●全体で約50%が一年間一度も歯科受診なし ●歯科受診なしのうち3年連続未受診者は約64%である
ト		歯科対策 重症化予防〈被保険者・被扶養者別 歯科受診割合〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●歯科受診者、受診率は経年で増加傾向にある ●被扶養者では、0～19歳、70歳代で受診率が高い

ナ		がん対策〈医療費経年比較〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●その他を除き、乳がん、大腸がん、肺がんの順で医療費が高い ●22年度の大腸がん医療費が18年度に比べて142%増加している
ニ		がん対策〈患者数経年比較〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●その他を除き、乳がん、大腸がん、その他女性生殖器の順で患者数が多い ●22年度の大腸がんの患者数が18年度から38%増加している
ヌ		がん対策〈胃がん〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●男性被保険者50代で患者数、受療率が増加している
ネ		がん対策〈肺がん〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●22年度の男性被保険者50代で患者数、受療率が増加している
ノ		がん対策〈大腸がん〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●男性被保険者50代で患者数が大幅に増加している ●被保険者、被扶養者ともに50代、60代で他組合の受療率よりも高い
ハ		がん対策〈乳がん〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●患者数が40代、50代で多い ●被保険者、被扶養者ともに50代、60代で他組合の受療率よりも高い
ヒ		がん対策〈子宮頸がん〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●被保険者は30代で患者数、受療率が大幅に増加、30代、40代は他組合の受療率よりも高い ●被扶養者は50代で患者数、受療率が増加している

フ		がん対策〈前立腺がん〉	医療費・患者数分析	●被保険者において、50代・60代で患者数が増加している
へ		がん対策〈診療開始日年齢分析〉	医療費・患者数分析	●各がんともに40代から患者数が増加傾向にある
ホ		メンタル疾患対策〈気分障害（うつ病など）・神経性障害（不安障害など）〉	医療費・患者数分析	●他組合より受療率が高く、経年で増加傾向にある ●20代女性の受療率が特に高い
マ		医療費適正化対策〈年度別 後発医薬品数量割合推移〉	後発医薬品分析	●20年度以降で全体の切替率が80%を超えているが、22年度の医科入院外では66.0%、歯科では54.6%である
ミ		医療費適正化対策 ポリファーマシー	医療費・患者数分析	●健康被害や有害事象が増加と言われる6剤以上の処方者が被保険者で594人、被扶養者で282人存在する
ム		医療費適正化対策〈医療費レンジ別加入者数・医療費〉	医療費・患者数分析	●21年度から22年度にかけて1円~10万円未満の患者数が191人減少しているが、10万円~50万円未満の患者数は1,201人増加している
メ		医療費適正化対策 高額患者の医療費構成割合	医療費・患者数分析	●被保険者は、消化器系の疾患、新生物、循環器系の疾患の医療費が多数を占める ●被扶養者は、新生物、内分泌・栄養及び代謝疾患、循環器系の疾患の医療費が多数を占める

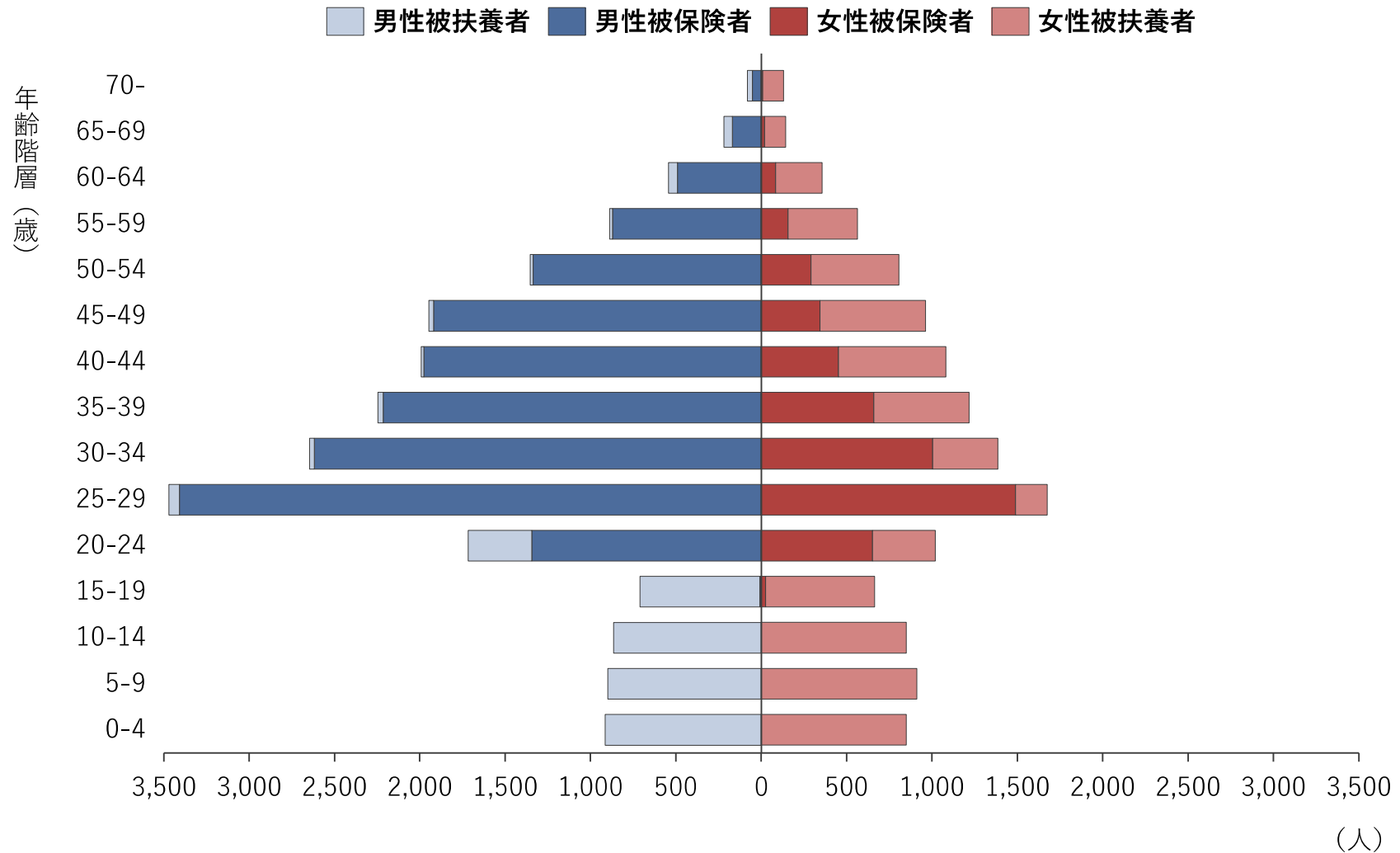
モ		医療費適正化対策 高齢者の医療費因数分解〈60~64歳〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●22年度の加入者あたり医療費は18年度から20.7%増加している ●22年度の患者あたり医療費は18年度から20.5%増加している
ヤ		医療費適正化対策 高齢者の医療費因数分解〈65歳以上〉	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●22年度の加入者あたり医療費は18年度から5.6%増加している ●22年度の患者あたり医療費は18年度から7.1%増加している
コ		予防接種関連疾患分析 インフルエンザ	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響で20、21年度で激減していたが、22年度では増加がみられる ●年齢階層別で見ると0歳～9歳が多くを占める
ク		小児疾患対策〈風邪〉	医療費・患者数分析	●15歳以下のうち、2歳～6歳の年齢層の受療率が87～93%と高い

加入者特性 〈2022年度 年齢階層別加入者構成〉

※年度：2022年度

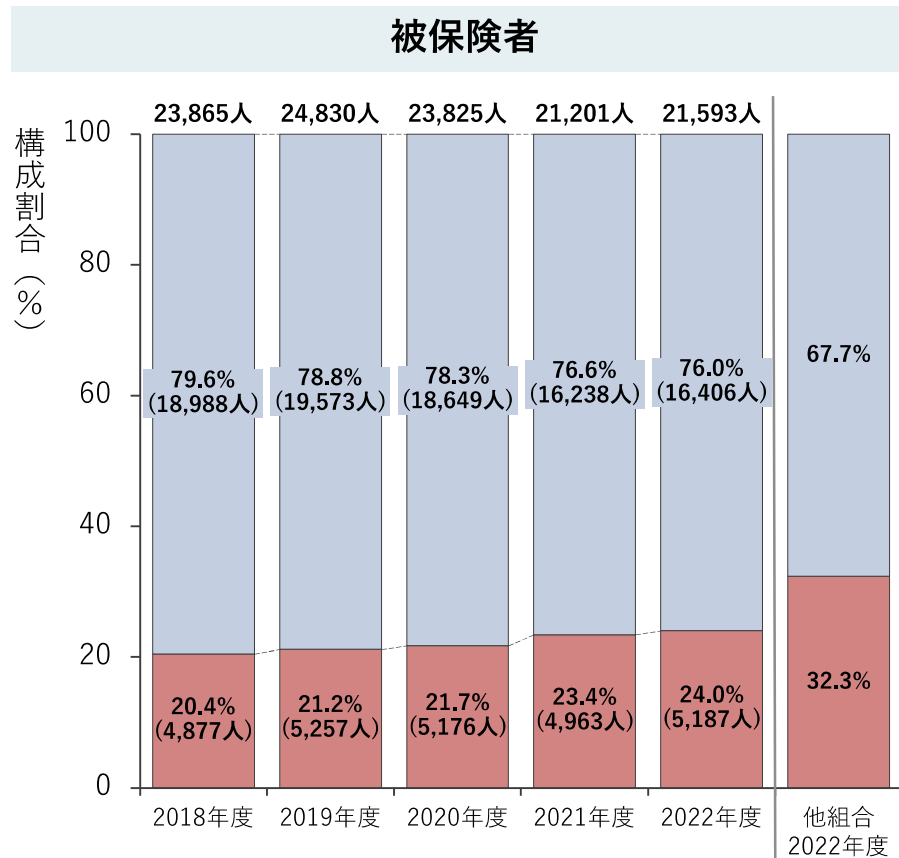
●被保険者は20代後半がボリュームゾーンであり、この世代を頂点に歳を重ねるごとに人数は減少傾向

性年齢・属性別加入者構成図



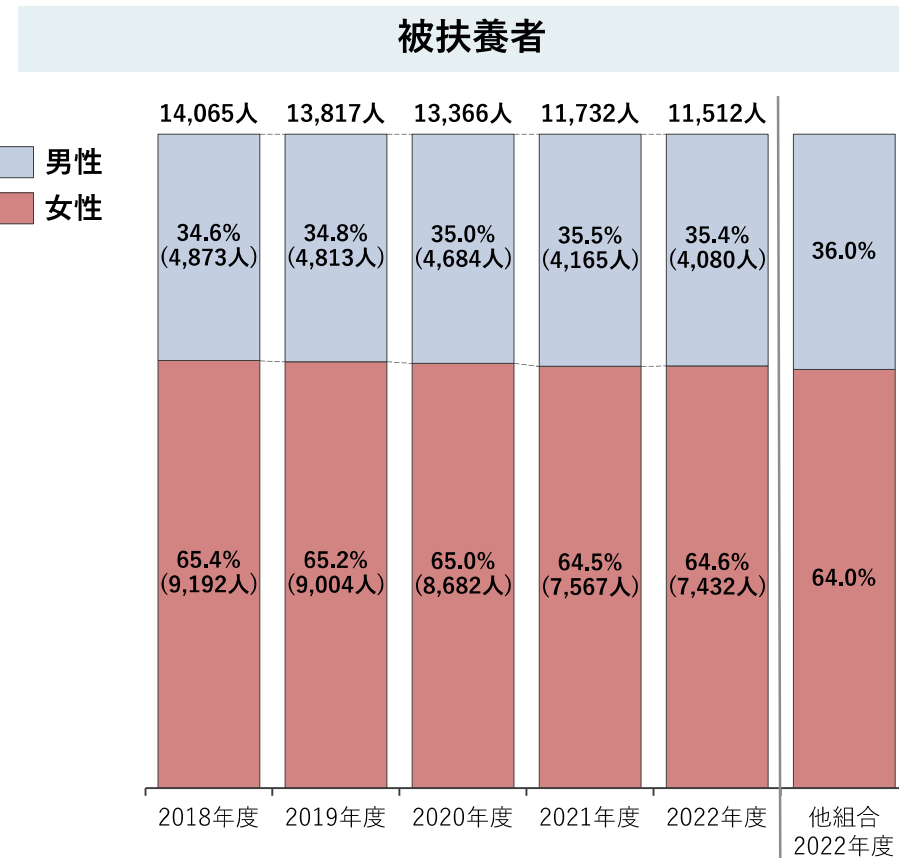
加入者特性 〈5か年の男女比率・平均年齢比較〉

- 被保険者の平均年齢は過去5年上昇傾向ではあるが、他組合よりも大幅に低い
- 被保険者と同様に被扶養者の平均年齢も低く、割合は過去ほとんど変化がない



平均年齢

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	他組合 2022年度
男性	36.3歳	36.4歳	37.2歳	37.8歳	38.1歳	43.6歳
女性	33.7歳	33.7歳	33.8歳	33.9歳	34.4歳	41.0歳
全体	35.8歳	35.9歳	36.4歳	36.9歳	37.2歳	42.7歳



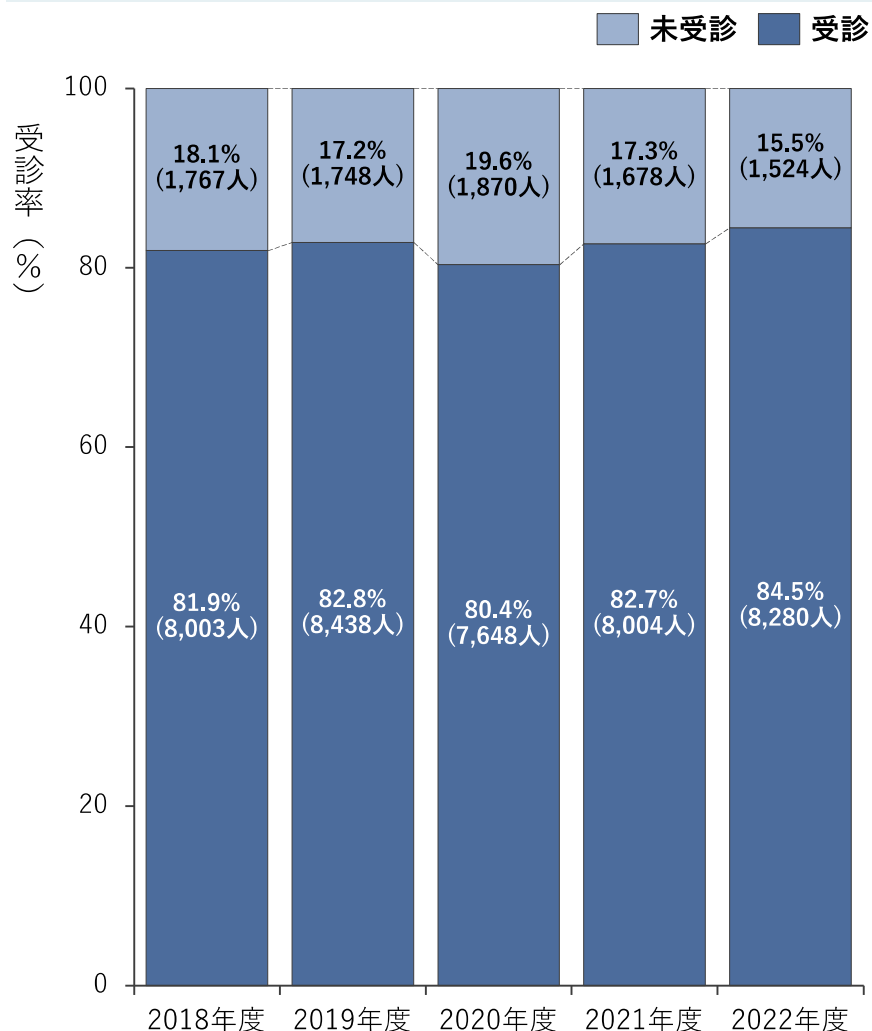
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	他組合 2022年度
男性	12.3歳	12.5歳	12.8歳	13.5歳	13.3歳	17.1歳
女性	27.6歳	27.9歳	28.4歳	28.7歳	28.8歳	31.4歳
全体	22.3歳	22.6歳	22.9歳	23.3歳	23.3歳	26.2歳

特定健康診査〈健診受診率〉

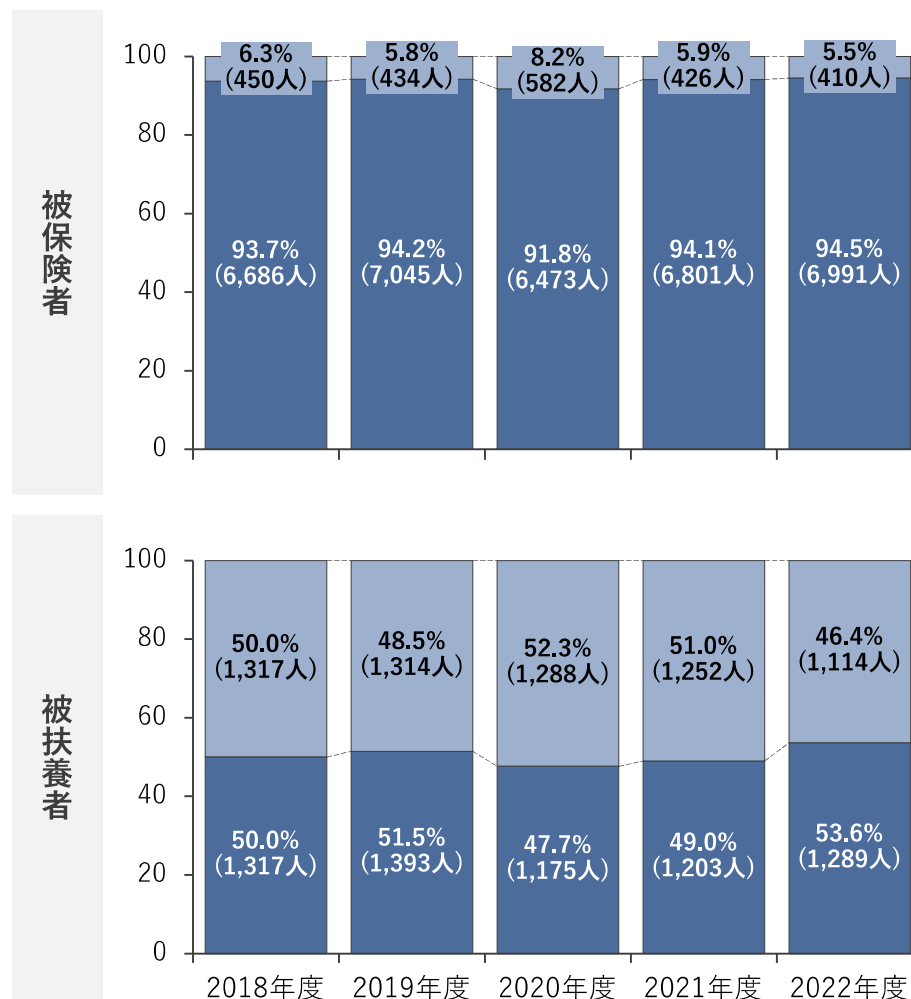
※対象：各年度継続在籍者
 ※年齢：各年度末40歳以上

- 被保険者の受診率は過去5年で大きな変化はない
- 被扶養者の受診率は50%近辺で推移している

年度別 健診受診率（全体）



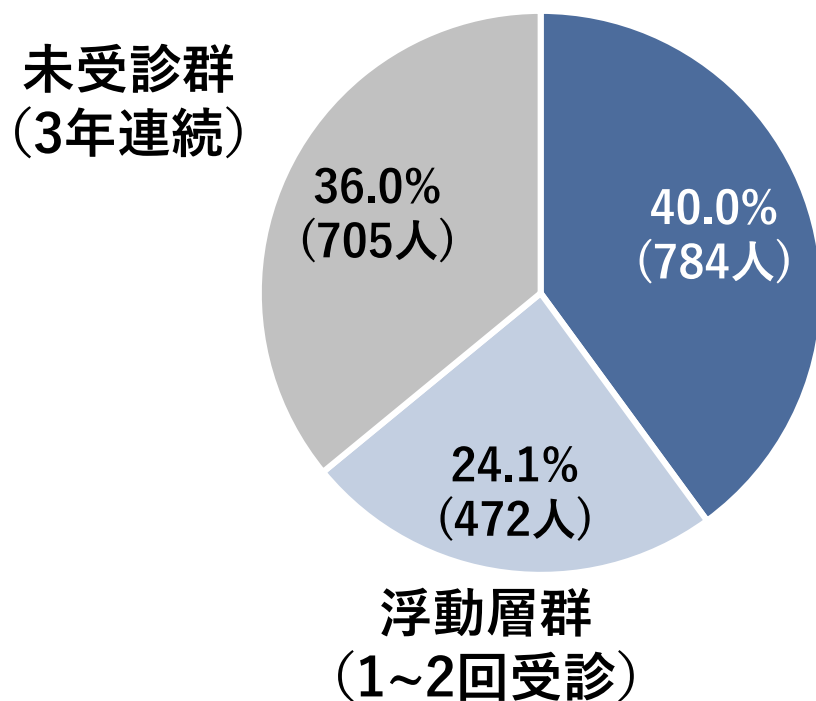
年度別 健診受診率（被保険者・被扶養者別）



特定健康診査〈被扶養者の3か年健診受診状況〉

※対象：2020~2022年度継続在籍被扶養者
 ※年齢：2020年度末40歳以上

●直近3年連続健診未受診者が36%存在する



連続受診群
(3年連続)

パターン	受診状況			該当者	
	2020	2021	2022	人数	割合
1	○	○	○	784	40.0%
2	○	○	×	59	3.0%
3	×	○	○	107	5.5%
4	○	×	○	82	4.2%
5	○	×	×	57	2.9%
6	×	○	×	63	3.2%
7	×	×	○	104	5.3%
8	×	×	×	705	36.0%

特定健康診査 〈健診未受診群のパターン分析〉

※対象：2021~2022年度継続在籍
2022年度健診未受診者
※年齢：2021年度末40歳以上

■所見：特定保健指導域の検査数値
■医療機関受診：下記いずれかに該当(2022年度内)
・3か月に1回以上の受診有り(医科・調剤レセプト)
・6か月で生活習慣病の血液検査が1回以上有り(医科レセプト)

●21年度・22年度連続未受診者（被扶養者）の中のうち、普段から医療機関に受診している者が47.3%存在する

分類	2021年度 健診	2021年度 所見	医療機関 受診状況	被保険者		被扶養者	
				人数	構成	人数	構成
パターン①	○	○	○	65	17.8%	71	7.2%
パターン②	○	○	×	66	18.1%	35	3.5%
パターン③	○	×	○	3	0.8%	10	1.0%
パターン④	○	×	×	3	0.8%	17	1.7%
パターン⑤	×	-	○	113	31.0%	469	47.3%
パターン⑥	×	-	×	115	31.5%	389	39.3%
合計				365		991	